令和8年度 岩手県民俗芸能フェスティバル

岩手の大地に舞う

＜出演＞
村崎野大乗神楽（北上市）
皆白行山流三ケ尻鹿踊（金ケ崎町）
中野流鵜鳥七頭舞（普代村）
気仙町けんか七夕太鼓（陸前高田市）
五葉念仏剣舞（住田町）
向町さんさ踊り（岩泉町）
田代念佛剣舞（宮古市）

＜特別出演＞　岩手県立北上翔南高等学校鬼剣舞部（北上市）

QRコードからアクセスすると、公演の動画をスマートフォン等でもご覧いただけます。
●YouTube「2026岩手の大地に舞う公式ch」



12月12日（土）

開場12：00　開演13：00

トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）

入場無料（一部を除き自由席）

※内容については一部変更になる場合があります。

主催／岩手県・（一社）岩手県文化財愛護協会
共催／（公財）岩手県文化振興事業団・岩手県民俗芸能協会
後援／岩手県教育委員会・（一社）岩手県芸術文化協会・（公財）岩手県観光協会
（公財）盛岡観光コンベンション協会・岩手県高等学校文化連盟・岩手県中学校文化連盟
岩手県高等学校長協会・岩手県中学校長会・岩手県教職員組合・岩手県小学校長会
岩手県高等学校教職員組合・（一社）岩手県PTA連合会・（一社）岩手県私学協会
岩手日報社・IBC岩手放送・テレビ岩手・NHK盛岡放送局・めんこいテレビ
岩手朝日テレビ・岩手ケーブルテレビジョン・エフエム岩手・ラヂオ・もりおか

お問い合わせ　（一社）岩手県文化財愛護協会　〒020-0102　盛岡市上田字松屋敷34（岩手県立博物館内）
TEL＆FAX：019-661-9688　E-mail：ib.aigo@k6.dion.ne.jp



令和7年度岩手県民俗芸能フェスティバルより

出演団体紹介

村崎野大乗神楽（むらさきのだいじょうかぐら）（北上市）

村崎野大乗神楽は、北上市村崎野の天照御祖神社の付属神楽です。奥寺堰開削に同行した佐々木惣三郎が、和賀の山伏たちと一緒に神楽を始めたことが村崎野大乗神楽の起源とされています。延宝７(1679）年、伊勢神社が建立され昭和25年まで神社の宮司が榊舞を奉納してきましたが、昭和59年に村崎野大乗神楽保存会が結成され、中野善一が北笹間大乗神楽の小原長次工門により榊舞を伝授され、多くの演目を復活させています。平成９年に北上市指定文化財に、平成13年には岩手県から「和賀の大乗神楽保持団体」の認定を受け現在に至っています。

皆白行山流三ケ尻鹿踊

（みなしろぎょうざんりゅうみかじりししおどり）（金ケ崎町）

皆白行山流三ケ尻鹿踊は、仙台藩領の北端部で伝承される太鼓系鹿踊で、宮城県本吉郡入谷村（現在の南三陸町）の四郎兵衛を元祖として、登米郡黒沼村（登米郡中田町）、胆沢郡徳岡村（奥州市胆沢）等を経て伝播したといわれています。三ケ尻地区には神楽、田植踊、鹿踊が伝承され、唱和44年には三ケ尻郷土芸能保存会が発足しました。その後平成14年に三ケ尻鹿踊保存会を結成させ、庭元を中心に青年会員によって踊り継がれており、足捌きや角入れの優れた技芸を披露しています。

中野流鵜鳥七頭舞

（なかのりゅううのとりななずまい）（普代村）

中野流鵜鳥七頭舞は、普代村にある鵜鳥神社に昔から伝わる「山伏神楽」の一種である「鵜鳥神楽」を基本にして、岩泉町小本中野地区に伝わる神楽を取り入れ、独自に創作した神楽です。七頭舞は、天保年間（今から160年程前）に岩泉町中野に生まれた黒森神楽の神楽大夫、工藤喜太郎が神楽の舞の一つ「シットギジシ舞」（神楽の一行が神楽宿となる家に入る時に踊る演目）を基に、江戸時代の末頃から明治の初めにかけて作り上げたと言われています。普代中学校七頭舞同好会は昭和62年に発足し、平成28年には中野流鵜鳥七頭舞育成会が設立され現在に至っています。

気仙町けんか七夕太鼓

（けせんまちけんかたなばたたいこ）（陸前高田市）

気仙町けんか七夕祭は、900年歴史と伝統があり、山から切り出した太い藤蔓で樹齢50年以上の杉の丸太を山車に括り付け、力強い太鼓が鳴り響く中で、相手の山車と激しくぶつかり合う勇壮な祭で、その山車の上でのお囃子を舞台用に脚色したのが「けんか七夕太鼓」となっています。

歩み太鼓、休み太鼓、けんか太鼓で構成され、強弱の変化、掛け声、太鼓の重なりなどで熱気と勇壮さを伝え、単調ではなく緊張感から一気に盛り上がれる流れが魅力です。

五葉念仏剣舞（ごようねんぶつけんばい）（住田町）

五葉念仏剣舞は、先祖に感謝と供養をするお盆行事として、また、五穀豊穣を祈願する郷土芸能として、300年以上前から踊られていました。元祖は、紺野八太郎という人で、伊達政宗公の祝宴で剣舞を舞い、大いに称賛され褒美として剣舞の装束の鎧と桐の紋を拝領したといいます。その後、踊りをさらに充実させるため、紺野兵太郎という人が、踊り・太鼓・笛・装束など剣舞に係るすべてを一人で習得し、地域の衆に伝承したとされています。この剣舞も途絶えた時期がありましたが、昭和63年、地元の中学生や有志の協力よって33年ぶりに復活し、現在に至っています。

向町さんさ踊り（むかいまちさんさおどり）（岩泉町）

大正９年、当町出身の三田地権次郎氏が宮古の花輪で、盛岡の木材業者から踊り・笛・太鼓を習い、岩泉に持ち帰り小笠原弥一氏とともに、町内の若者に教えたのが「向町さんさ」の始まりとされています。戦前戦中に踊られない時期もありましたが、戦後、再び三田地権次郎氏によって若者たちに教えられ、この時習った若者の多くが向町の青年だったので「向町さんさ踊り」と呼ばれるようになりました。その後、岩泉高校文化祭に取り入れられた時から、「通り」、「本踊り」など９種類の演目で踊り継がれています。現在は岩泉甚句などの伝承も含め様々な分野で披露しています。

田代念佛剣舞（たしろねんぶつけんばい）（宮古市）

田代念佛剣舞は、宮古市区界（旧川井村）に所在する民俗芸能で、文化年間（1804～1817年）頃に、田代村の去石仙仁門が仙台七北田の酒屋に出稼ぎに行っていた最中に習い覚え、剣舞の巻物を授与されたと伝えられています。明治期には宮古市箱石や盛岡市浅岸にも伝承されました。戦時中でも盆供養だけは欠かすことなく継続しており、戦後早くから盛岡市で発表会を行うなど精力的に活動を行い、現在に至っています。過疎化が著しい地域であります。小中高生を中心に練習を継続し、保存会が地域行事を主催するなど、地域の核となって活躍しています。

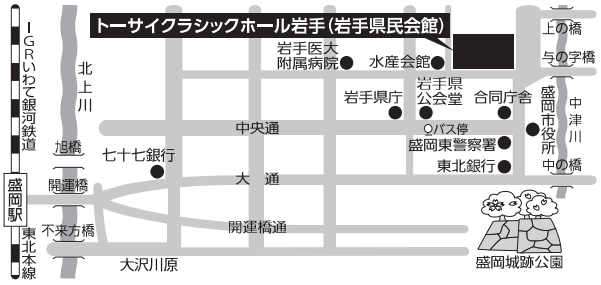
〈特別出演〉

岩手県立北上翔南高等学校鬼剣舞部

（いわてけんりつきたかみしょうなんこうとうがっこうおにけんばいぶ）（北上市）

鬼剣舞は、北上地方の農民に伝承する民俗芸能で、今から1300年ほど前に始まったとされる念仏踊りです。ヘンバイという足踏みによって大地の悪霊を退散させ、天下泰平、五穀豊穣の祈りが込められています。

北上翔南高校鬼剣舞部は、地元「岩崎鬼剣舞保存会」からご指導をいただき、伝承活動に取り組んでいます。日頃は、高齢者施設の慰問や各種イベントなどに参加し、地域の方々と交流を深めています。今年７月、秋田県で開催された全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門において、最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞しました。



■トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）アクセス

盛岡市内丸 13-1（TEL019-624-1171）

□ JR 盛岡駅よりバス

「バスセンター」行　県庁・市役所前下車・徒歩２分

□お車をご利用の場合

県民会館及び周辺の有料駐車場をご利用ください。